

●平成12年度 決算公告●

消費収支計算書の要旨

平成12年4月1日から平成13年3月31日まで (単位 千円)

消費収入の部		消費支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金	2,162,692	人件費	2,241,256
補助金	910,167	教育研究経費	663,043
その他	326,333	管理経費	232,751
帰属収入合計	3,399,192	その他	131,872
基本金組入額	△ 44,272		
消費収入合計	3,354,920	消費支出合計	3,268,922
消費支出超過額		消費収入超過額	85,998
合計	3,354,920	合計	3,354,920

貸借対照表の要旨

平成13年3月31日現在 (単位 千円)

資産の部		負債・基本金・消費収支差額の部	
科目	金額	科目	金額
資産	15,468,992	負債	1,548,985
固定資産	13,371,717	固定負債	656,885
有形固定資産	12,369,088	流動負債	892,100
その他固定資産	1,002,629	基本金	14,686,678
流動資産	2,097,275	消費収支差額	△ 766,671
合計	15,468,992	合計	15,468,992

当年度消費収入超過額	85,998
前年度繰越消費支出超過額	852,669
翌年度繰越消費支出超過額	766,671

平成12年度決算公告

学園本部長 兼 財務部長 川口 博

今回は消費収支計算書の見方について説明しましたので、今回は貸借対照表の説明をします。

私立学校法第25条で「学校法人は、その設置する私立学校に必要な施設及び設備又はこれらに要する資金並びにその設置する私立学校の経営に必要な財産を有しなければならない。」と定められています。すなわち、貸借対照表は、教育研究活動のための必要財産の保有状況を示しているのです。

経短、明德、成章の各学校が教育研究活動をすすめていくには、様々な施設・設備を必要とします。校舎、グラウンド、体育館、情報機器、視聴覚機器、図書、マイクロバス等数えればきりがなほど沢山のものを利用していますが、これらを固定資産と呼び約133億円分有ります。又、運営に必要な資金として、現金預金、有価証券、未収入金、前払金等があり、これを流動資産と呼び21億円有ります。貸借対照表の左半分には、これらを合わせた約154億円が表示されています。

右半分にはこれら資産を調達した源泉が示されています。基本金と消費収支差額が、企業会計で言えば資本の部に当たります。自己資本とも言います。明德学園では、基本金+消費収支差額は約139億円で、これが正味財産とも言えます。これに対して負債のことを他人資本と言うこともあります。自己資本で調達できなかった資産は、こうした将来返済しなければならない長・短借入金や学校債、前受金、預り金等の負債によっても準備されています。これらが、約15億円有ります。

次回からは、これらを、前年度との比較で分析、説明をしていきます。